

(配布先)

施工担当部署長、建設所長
設備部長、副部長、副所長
安全長・安全主任
S・BLC関西支社
関西支店取引業者災害防止協議会

事務連絡(安-2019-57)
令和2年 2月 17日

関西支店

安全環境部長



【紙回覧】 令和2年「春季火災予防運動」の実施について(要請)

標記について、安全環境本部長より示達(要請)がありましたので連絡します。

示達にある「作業所重点実施事項」が確実に実施されるよう、作業所に指示・徹底をお願いします。また、3月は季節の変わり目で、春一番等の強風による物の飛散や倒壊事故のリスクが高くなり、例年そのような事故の発生があります。火災予防と合わせて強風対策についても指示・徹底を宜しくをお願いします。

■ 消防庁統一防火標語(令和元年度)

“ひとつずつ いいね！で確認 火の用心”

以 上

(配布先)
関係部門長、支店長
部門安全管理総括責任者
部門安全環境部長

示達本 (安環安) 19-14
令和 2 年 2 月 1 4 日

安全環境本部長



令和 2 年「春季火災予防運動」の実施について (要請)

春一番などの強風による火災の発生しやすい季節を迎えるにあたり、消防庁主唱による令和 2 年「春季火災予防運動」が実施されます。

当社作業所においては、別紙 1 のとおり、季節を問わず溶接・溶断作業等での火気使用管理の不徹底等による火災発生が絶えません。

これを機に、作業所における防火管理体制及び自衛消防隊組織の整備とその機能・役割の再徹底、並びに下記事項の実施を徹底するよう要請します。

特に、仕上げ期の作業所に対しては、溶接等の火気使用場所の可燃物の除去徹底と、監視人配置などの措置を徹底するよう合わせて指導をお願いします。

記

1. 期 間 令和 2 年 3 月 1 日 (日) ～3 月 7 日 (土)

2. 全国統一防火標語 (令和元年度)

“ひとつずつ いいね！で確認 火の用心”

3. 作業所の重点実施事項

(1) 次の事項の見直しと再徹底

- a. 改修工事及び増築工事の既存取合部における「火なし工法」採用の徹底
- b. 溶接・溶断等の火気使用作業時の防火対策と終了時の点検・確認体制 (相当時間経過後の点検体制を含む)
- c. 発泡スチロールの使用・保管に関するルール of 徹底
- d. ウレタンフォーム施工済み場所での火気使用厳禁の徹底
 - ・火なし工法の徹底もしくは十分な離隔距離確保
 - ・照明器具、仮設電線等熱源となるものを近づけない
- e. 事務所・休憩所・宿舍等の防火対策
- f. 消火設備・器具の適正配置と保守管理
- g. 不審火対策 (特に夜間・休日の部外者侵入阻止対策)
- h. 火災発生時の即時 119 番通報の徹底

(2) 防火一斉点検 (別紙 2 を利用) 並びに通報・避難及び初期消火訓練の実施

以 上

社外秘

最近の当社作業所での火災発生状況（過去5年間・計20件）

〈別紙1(1)〉

(安全環境本部へ報告があったもの)

R2.2.12 現在

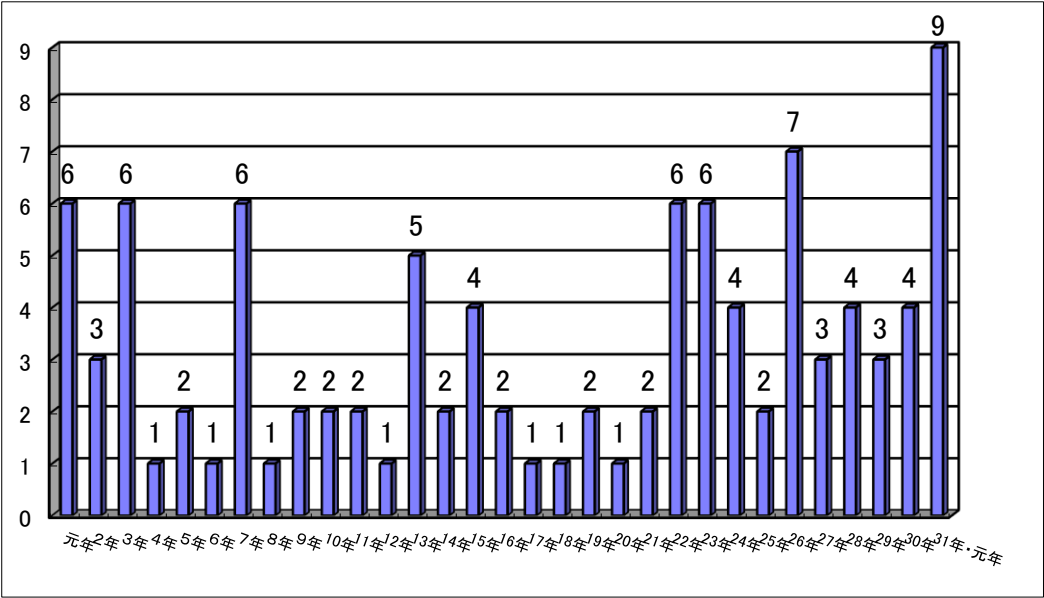
	発 生 年 月 日	発 生 状 況	原 因
1	28. 3. 25 15:25 頃	高所作業車上で鉄骨をガス切断しているときに、バッテリー不良又は火花養生不良により高所作業車バッテリーから発煙	・ 不明（消防署調査） （バッテリー不良又は火花養生不良）
2	28. 7. 18 12:50 頃	発電機の負荷試験中に煙道免震フレキが発火	・ 断熱材の不良
3	28. 7. 22 12:20 頃	施工中建物内（廊下）に仮置していた照明器具から発火	・ 不審火（放火の疑い）
4	28. 7. 26 10:40 頃	建物内（室内）に仮置していた床材の梱包ダンボールから発火	・ 不審火（放火の疑い）
5	29. 2. 17 22:30 頃	作業員宿舎が全焼	・ 不審火（放火の疑い）
6	29. 3. 17 11:20 頃	ストーブの火が、ガードマンボックスの壁に引火（消防署見解）	・ 火の不始末
7	29. 11. 19 14:50 頃	水中ポンプで地下水を汲み上げ中に、発電機が自然発火	・ 不明（消防署調査）
8	30. 3. 23 14:45 頃	床材を炙っていたトーチの火を消し忘れ、床材の接着剤に引火	・ 火の不始末
9	30. 7. 5 12:20 頃	溶接作業の残り火が、オリオンに引火	・ 火の不始末
10	30. 7. 23 16:30 頃	溶接火花が近隣植栽に引火し、植栽帯一部焼失	・ 火花飛散防止措置不備
11	30. 9. 12 11:45 頃	スタッド溶接火花が塗料と養生ネットに引火	・ 火花飛散防止措置不備
12	31. 3. 8 16:08 頃	インパクトレンチのバッテリーが落下し発火	・ 落下原因不明
13	31. 3. 18 11:00 頃	資材置場の台車の中身（シール材、電工ドラム、図面等）から発火	・ 不明（消防署調査）
14	31. 3. 28 14:00 頃	フラットデッキリブの溶断火花が、塗装養生用マスキングテープに引火	・ 火花飛散防止措置不備
15	元. 5. 6 9:53 頃	ケーソンのマテリアルロック操作室が全焼	・ 不明（消防署調査）
16	元. 5. 24 14:00 頃	下地ランナー受部のリブデッキ切断の火花が下階養生シートに引火	・ 火花飛散防止措置不備
17	元. 6. 2 23:56 頃	無人事務所の、停止中エアコン電源プラグ付近から発火	・ 電気部品のショート （消防署調査）
18	元. 7. 15 16:00 頃	室内のユニットバス、家具、他内装が焼失	・ 不審火（放火の疑い）
19	元. 11. 1 10:50 頃	仮設架台金物をガス切断した後、ガスホースが切断箇所の予熱で溶けて引火	・ 後始末不備
20	元. 11. 21 12:08 頃	設備業者資材置場の冷媒被覆鋼管（段ボール梱包）から発火	・ 不明（消防署調査）
21	以下余白		
22			
23			

当 社 発 生 火 災 の 分 析 *** 平成の31年間で101件発生 ***
(平成元年～令和元年)

(1) 発生推移

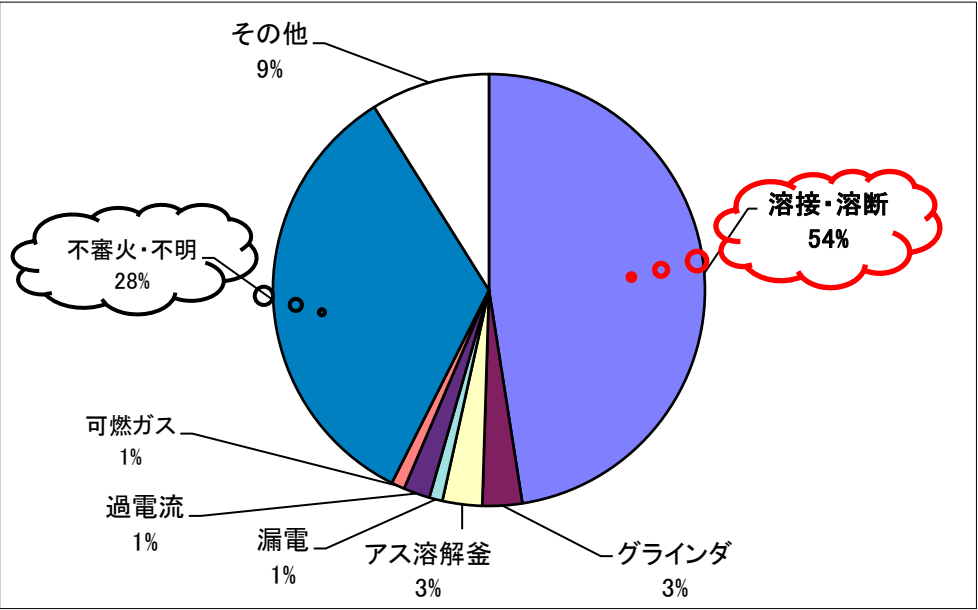
R 2. 2. 12現在

年	発生件数
元年	6
2年	3
3年	6
4年	1
5年	2
6年	1
7年	6
8年	1
9年	2
10年	2
11年	2
12年	1
13年	5
14年	2
15年	4
16年	2
17年	1
18年	1
19年	2
20年	1
21年	2
22年	6
23年	6
24年	4
25年	2
26年	7
27年	3
28年	4
29年	3
30年	4
31年・元年	9
計	101



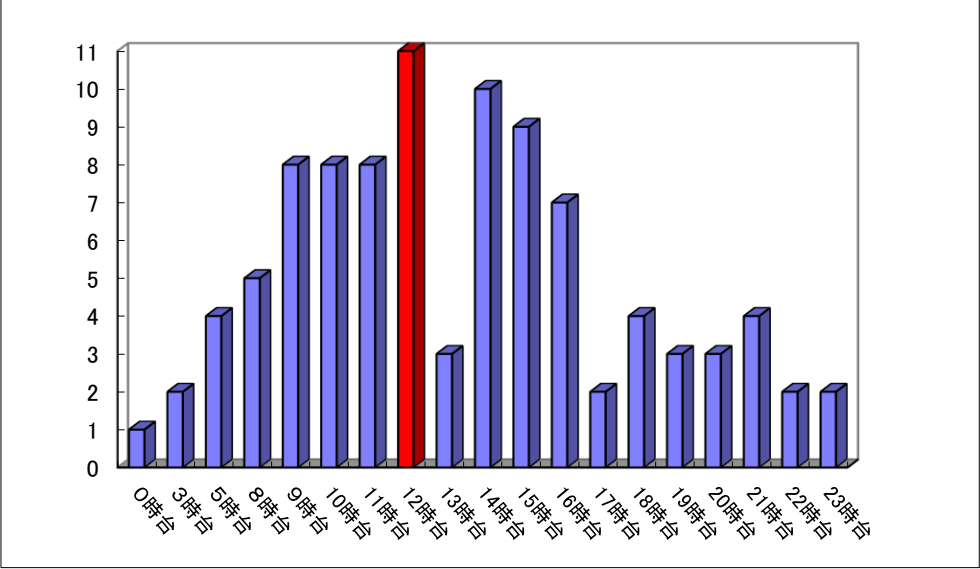
(2) 発生原因

原 因	発生件数
溶接・溶断	48
グラインダ	3
アス溶解釜	3
漏電	1
過電流	2
可燃ガス	1
不審火・不明	34
その他	9
計	101



(3) 発生時間帯 (時間不明5件を除く)

時間帯	発生件数
0時台	1
3時台	2
5時台	4
8時台	5
9時台	8
10時台	8
11時台	8
12時台	11
13時台	3
14時台	10
15時台	9
16時台	7
17時台	2
18時台	4
19時台	3
20時台	3
21時台	4
22時台	2
23時台	2
計	96



令和2年 春季火災予防運動〔一斉点検用紙〕

点検月日： 月 日（ ）

防火点検表

全国統一防火標語

・・・ ひとつずつ いいね！で確認 火の用心 ・・・

統責者	元方管理者	点検者
-----	-------	-----

(結果欄の表示 ○：良好 ×：要是正 /：該当なし)

点 検 項 目			結 果	点 検 項 目			結 果
組 織 ・ 計 画	防火管理者の選任・届出			場 内	消火器等の消火器具配置		
	消防計画・届出						
	防火管理組織・自衛消防組織						
	改修・取合工事での火なし工法採用						
	火気使用作業時のルールと周知						
教 育 等	通報・避難・初期消火訓練の実施			溶 接 ・ 溶 断 作 業	ボンベ・ホース・器具の管理		
	救急法の訓練				資 格 の 確 認		
			火気使用の届出・監視体制				
			作業場所及び周辺の可燃物の除去・防護措置				
			火花受け等の飛散防止措置				
			消火器等消火器具の手元配置				
			作業終了時の報告・時間経過後の点検確認体制				
			強 風 時 対 策				
機 材 ・ 用 具	消火器等消火器具の維持管理			ス チ ロ ー ル	使用・保管する方法、場所、責任者の確認		
	救急用具・材料の整備(救急箱・担架等)				使用・保管場所付近での火気使用禁止		
	通 報 設 備				ルールの掲示		
					消火設備の設置		
事 務 所 ・ 詰 所 等	厨房ガス設備			ウ レ タ ン	ウレタン施工時の火気使用禁止と表示		
	暖房器具の管理・取扱状況				ウレタン材料の管理		
	電 気 配 線				施工箇所の火気厳禁表示		
	たばこの吸ガラ処理						
	避難用通路の確保			危 険 物	消防署への届出(指定数量の1/5以上)		
	避難階段・避難器具				貯蔵の場所・容器・数量等の管理		
	消火器等消火器具の配置				貯蔵場所の消火器具配置		
宿 舎	厨房ガス設備			そ の 他	メタン等可燃性ガス等の濃度測定管理		
	暖房器具の管理・取扱状況				有機溶剤使用作業中の火気管理		
	たばこの吸ガラ処理				電動カッター・グラインダー等使用時の火花飛散防止対策		
	電 気 配 線				トーチランプ・ガスバーナの使用管理		
	避難用通路の確保・表示				アスファルト防水作業の管理(溶解釜等)		
	避難階段・避難器具・表示				爆発危険の予測される工事における火気の携帯禁止(ライター等)		
	消火器具・警報設備 (設置場所と使用方法の周知を含む)				場内安全通路(避難通路)の確保		
	通報・避難訓練				その他火気使用時の防火対策		
喫 煙	喫煙場所の指定と管理						
	歩行中のくわえたばこ禁止の徹底			不審火対策(特に夜間・休日)			
	喫煙指定場所の消火器具配置						
要是正事項及び措置							確 認

(注) 作業所の実態に合わせて点検項目を追加・削除し、利用してください。

【他社事例】

他社 火災事故 2018. 7. 26 (木)



都内のデータセンター新築工事において、地下3階で鉄骨部材を切断中、溶断火花が床下（免震階）天井面の断熱用発泡ウレタンに着火した。（報道による）作業員3人のうち、火気使用者は1人、1人は飛び散った火花の消火役、もう1人は下階で火花監視役、火が付いた直後、水や消火器で消火したが間に合わなかった。（作業員5名死亡、42名負傷（内25人重傷））

【当社事例1】

P1

発生日時：平成23年5月18日（水） 午後1時30分頃

発生場所：冷蔵庫棟 1階

【火災の発生状況】

- ・キーストン天井吊ボルトの振れ止め補強溶接作業中、溶接火花が落下し、1階スラブ上に仮置きしていたスタイロフォームに引火し、燃え広がった。
- ・溶接火花はキーストン天井と区画壁との隙間、もしくは吊ボルトの切り欠き部分の隙間のいずれかより落下（詳細は調査中）
- ・13:30頃 火災発生。
作業員を避難させるとともに、消防署に連絡
- ・14:00 消防車が到着し消火活動開始
- ・17:40 消防車放水作業を一旦中断
- ・18:30 放水作業再開
- ・20:30 鎮火



【当社事例2】

火災事故 2010.11.26(金)



地下基礎工事中,型枠建込用のセパ受け金物を溶接取付中,レベルコンクリート下に打ち込んでいた発泡スチロールに引火した。
消火器で消火作業をしたが鎮火せず,10分後 消防車が到着し消火した。
発泡スチロール 約30m³焼失 場内各所及び隣地建物2棟 煤汚れ